

機関番号：3 2 4 2 2

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：2 0 5 6 0 6 0 4

研究課題名（和文）

初期大工技術書に関する研究 - 「木碎之注文」にみる前近世的思想と技術について-

研究課題名（英文）

The study on architectural reference books of the carpenter in the Medieval Period.

研究代表者

佐々木 昌孝 (SASAKI MASATAKA)

ものつくり大学・技能工芸学部建設技能工芸学科・講師

研究者番号：3 0 3 6 7 0 4 9

研究成果の概要（和文）：研究期間終了後に木割書『木碎之注文』の翻刻ならびに解説書籍を刊行することを目的として『木碎之注文』と同様にその成立が古い初期木割書の発掘・収集を行いながら、当該史料の原文を詳細に読解した上で、全編のデジタルテキスト化を行い、読解結果に基づいて原文全編の現代語訳を作成、解説図版・用語解説等を作成した。また、研究期間中の成果公表として日本建築学会講演会に計 7 編、同学会関東支部研究報告会に 1 編を報告した。

研究成果の概要（英文）：For the purpose of publishing a reprint of allotment of reference book "KIKUDAKI no CHUMON" and a commentary book after a study period, the establishment collected the excavation of the old initial allotment of timber book like "KIKUDAKI no CHUMON". We made a digital text of the whole book after having read and understood the original text concerned in detail and made a living language version of the original whole book based on a reading and understanding result.

In addition, we made a commentary plate, a glossary. As result publication during a study period, we reported 8 parts in total in Architectural Institute of Japan.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学、建築史・意匠

キーワード：大工技術書、木割書、木碎之注文、斎藤家、中世、洲本、豊後府内、豊後大友氏

1. 研究開始当初の背景

木割書は、建築を建てる際の技術者側の設計方法や理念を知る手段として、これまでに様々な研究がなされてきた。このような木割書研究は、その先駆的段階にあつては、伊藤要太郎「木割についての考察」(『日本建築學會研究報告』vol.4, 1949) に端を発し、江戸幕府作事方大棟梁の家柄である平内家の木

割書『匠明』の研究を中心に展開された。その後、内藤昌「大工技術書について」(『建築史研究』vol.30, 1961) における大工技術書 100 余種の目録を付した技術書の変遷過程の論考が象徴するように、木割書の発見が進み、『匠明』以外の木割書の技術体系についても関心をもたれるようになった。平内家と同様に作事方大棟梁であった甲良家の木割書を

研究した河田克博「建仁寺流堂宮雛形の研究」(『日本建築古典叢書 第三巻』、大龍堂書店、1988)がその代表例として挙げられよう。その流れの中で、体系的に整理された『匠明』よりも前の木割書の原形を探ろうとする動向があり、幾つかの木割書が報告され、その内容についてもまとめられてきた。そのような木割の原形を示すことが見込まれる木割書は「初期木割書」と称され、現在では10余種のものが知られている。その「初期木割書」の中に『木碎之注文』がある。永井規男、新見貫次「洲本御大工斎藤家旧蔵の木割書について」(『日本建築学会近畿支部研究報告集』1981)によって学界に紹介された。

2. 研究の目的

(1) 目的の要旨：本研究は、日本の建築技術史を総覧する上で総括的に把握する必要があることが認められていながら未だ十分な分析がなされていない木割書『木碎之注文』を細部まで詳しく読解し、本文に解説を加える形の基礎資料として、社会に広く提供することを目的とするものである。

(2) 『木碎之注文』を研究する意義：『木碎之注文』を主な対象とした研究には、本史料を紹介した前述の永井・新見両氏の論文の他に渡辺勝彦、岡本真理子、内藤昌「いわゆる『木碎之注文』(『寿彭覚書』)における堂・社・門の木割体系」(『日本建築学会計画系論文報告集』、1986)と渡辺勝彦、岡本真理子、内藤昌「いわゆる『木碎之注文』(『寿彭覚書』)における木割体系の特質」(『日本建築学会計画系論文報告集』、1987)がある。まず、永井・新見両氏の論考において、書誌的な通読の成果として、「原本としては、おそらく最古に属する木割書であるというだけでなく、守護・戦国大名下の御大工の問題に関しても、また戦国期の豊後地方史に関しても貴重な史料であることは疑いない」と評価されており、更に、渡辺氏らの論考においても、木割の方法を考察した成果として、『『寿彭覚書』 [= 『木碎之注文』] における木割体系は、現在判明するもののうちで最も遡るものとなる。そこに『寿彭覚書』の歴史的意義を認める」と評価されており、『木碎之注文』の史料価値は既に学界においては周知されている。

上述の様に史料価値を認められていることもあって、『木碎之注文』は木割書に関わる研究に度々援用されてきた。清水隆宏、河田克博、内藤昌「木割書における多宝塔設計体系の研究」(『日本建築学会計画系論文集』、2005)などの建物種別を限って木割書を総覧しようとする研究や、光井渉「和様・唐様・天竺様の語義について」(『建築史学』vol.46、2006)などの成立期の古い木割書を総覧しよ

うとする研究において、『木碎之注文』は援用されている。しかし、前述の永井・新見両氏や渡辺氏らの研究で『木碎之注文』の全容が明らかにされたわけではない。『木碎之注文』は建築技術史の貴重な史料として今後も使用されていくことが予想され、その総括的な把握は不可欠である。そこに本史料を研究する意義がある。

3. 研究の方法

(1) 研究期間で何をどこまで明らかにしようとするか：『木碎之注文』は、他の木割書と比した時に、木割と実寸が並存しているところに最も大きな特徴がある。木割術とは、各々の部材寸法の比が決められることによって、建物全体のプロポーションを決定する設計の方法であるが、そのような木割術の記述と具体的な実寸法が併記される史料は、『木碎之注文』を除いてはほとんど存在しないと云える。

しかし、この様な『木碎之注文』の最も大きな特徴はこれまでの研究では、ほとんど触れられておらず、このことの解決なしに『木碎之注文』を把握することはできない。また、『木碎之注文』は木割書としてしか研究されておらず、木割術の記述の部分だけが研究の対象となっている例がほとんどであり、実寸法の記述の部分は対象外とされてきた。

前述の様に、『木碎之注文』の総括的な把握は不可欠であるから、『木碎之注文』に記された全ての内容を解釈することが、本研究が全うしようとする範囲である。

更に、この様な貴重な史料は、一般の利用の便を良くすべきである。従って、総括的に『木碎之注文』を把握した後、最終的には出版することを目指す。刊行計画としては、研究の流れに示したSTEP3にある3部の著作として刊行することを目指している。

(2) 研究体制：論考「洲本御大工斎藤家旧蔵の木割書について」の筆者であり『木碎之注文』研究の第一人者である永井規男氏(関西大学名誉教授・工学博士)を協力者に迎え、また2006年に永井規男氏の研究ノートを引き継ぐ形で発足した『木碎之注文』研究グループのメンバーを分担者・協力者としている。研究代表者の佐々木は江戸幕府小普請方大工棟梁柏木家の木割書分析を「『海老おり』という技法について」(日本建築学会大会梗概集、2002)等の論考で既に発表している他、アンコール、ヴェトナムをはじめアジアの建築文化を設計技術の側面から長年研究してきた中川氏と溝口氏、日本の住宅木割の研究である河津氏、木割書『鎌倉造営名目』の斗拱寸法計画の分析を発表している坂本氏等の分担者・協力者に加え研究体制を整えている。

(3) 研究の流れ：本研究は3年の計画で実施される。『木碎之注文』研究グループでは2006年夏からすでに当該文献の読解をはじめており、計画期間の3年間を通して参考木割書との比較読解・分析を行いながら、年度毎に原文読解の成果を公開提供した。



【木碎之注文 原典】

STEP1 史料収集

本研究は、その計画段階においてすでに『木碎之注文』と成立期ならびに成立地に近い『(古河新兵衛覚書)』(所蔵：高良大社)を収集し内容を確認した。

『木碎之注文』が有する木割書としての性格を広範に研究する為、地方に散在する木割書の中から重要度の高い史料を厳選し、現地に赴き収集する作業を行った。

本研究の代表者・分担者・協力者で構成される木碎之注文研究会では、『木碎之注文』を理解する援用史料として地方に散在する初期木割書の中から重要度の高い史料、『林家木割書』(所蔵：都立中央)、『諸記集』(所蔵：静嘉堂文庫)、『(孫七覚書)』(所蔵：名古屋工業大学)、『(今福彦兵衛伝来目録)』(所蔵：安田家)の複写を行った。

STEP2 史料分析

分析に先がけて原本を読み下しテキストデータ化を行う。その上で原文を解釈し、記されている設計方法の図面データ化を試みた。また、同時代の参考木割書との比較読解・分析を行うことで、技術や専門用語に見られる時代的な傾向を抽出し、『木碎之注文』をはじめとする初期木割書に比べて先行的研究の蓄積が多い近世木割書との相違を明らかにした。

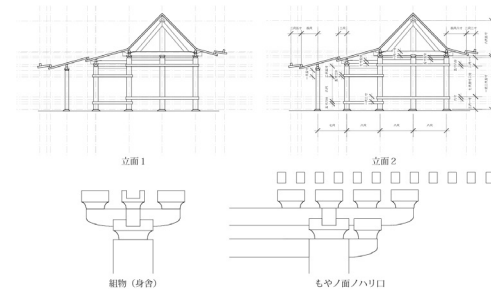
STEP3 成果公開

上記2つのステップを経て完成した研究成果を①原文、②原文の解釈、③『木碎之注文』に関する論文集にそれぞれまとめた上、基礎資料集として出版し、多くの研究者に利用できる形での提示を目指す。なお、成果の出版にあたっては、研究成果公開促進費等

を別途申請して出版助成を得る予定である。

4. 研究成果

計 69 回の木碎之注文研究会が開催され「STEP1～2」が実施された。平成 22 年度で研究期間を終えた後、「STEP1～2」の成果に「STEP3」の論考集を加えた上で、研究成果公開促進費を申請する等の助成を得て総合的成果を報告書として刊行する計画となっている(平成 24 年度刊行予定)。



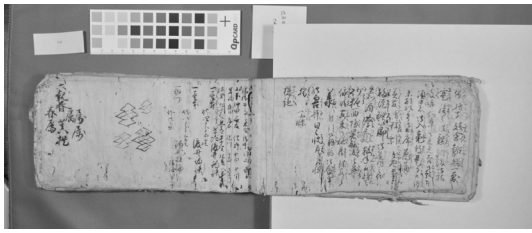
【解釈の図化の例】

研究期間の成果として『木碎之注文』に關して、社会に広く公開するための基礎的な資料が、既採択研究課題「初期大工技術書に関する研究」において得られた。

『木碎之注文』全編を読解し、全編に渡る翻刻デジタルテキストを作成し、詳細な読解作業を繰り返した結果全編の現代語訳をとりまとめ、解釈結果を図化した。また、洲本市立淡路文化史料館所蔵の「木碎之注文」(所蔵史料名「斎藤家祖先の記録」)、ならびに大工斎藤家関連文書(「代々ノ上控書」、「諸御用法量控帳」、「斎藤氏祖先霊簿」、「安覚寺諸控」)の原本を確認の上、デジタルカメラによる高解像度撮影の記録保存を行った。さらに、初期大工技術書の類例として『林家木割書』(所蔵：都立中央図書館)、『諸記集』(所蔵：静嘉堂文庫)、『(孫七覚書)』(所蔵：名古屋工業大学)、『(今福彦兵衛伝来目録)』(所蔵：安田家)等の史料を複写収集した。また、研究過期間中に成果の一部を日本建築学会関東支部研究報告会(2009)、同学会大会梗概集(2010-2011)に投稿・発表した。



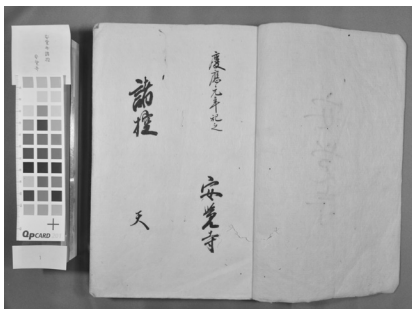
【代々ノ上控書】



【諸御用法量控帳】



【斎藤氏祖先霊簿】



【安覚寺諸控】

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計8件)

- ① 米澤貴紀・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・小岩正樹・伏見唯、『木碎之注文』を通してみた室町中期高良大社本殿平面の復原、日本建築学会関東支部研究発表会、平成22年3月4日、建築会館303会議室
- ② 米澤貴紀・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・小岩正樹・伏見唯、『木碎之注文』における輿について、日本建築学会学術講演会、平成22年9月9日、富山大学人文学部第1講義室
- ③ 佐々木昌孝・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・小岩正樹・米澤貴紀・伏見唯、『木碎之注文』における枅の寸法について、日本建築学会学術講演会、平成22年9月9日、富山大学人文学部第1講義室
- ④ 小岩正樹・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・米澤貴紀・伏見唯、『木碎之注文』における多宝

塔上重の枝割、日本建築学会学術講演会、平成22年9月9日、富山大学人文学部第1講義室

- ⑤ 佐々木昌孝・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・小岩正樹・米澤貴紀・伏見唯・山岸吉弘、木碎之注文と洲本御大工斎藤家について、日本建築学会学術講演会、平成23年8月25日(予定)、早稲田大学11号館908室(予定)
- ⑥ 米澤貴紀・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・小岩正樹・伏見唯・山岸吉弘、木碎之注文に見られる寺社・建物・年紀・人物について、日本建築学会学術講演会、平成23年8月25日(予定)、早稲田大学11号館908室(予定)
- ⑦ 伏見唯・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・小岩正樹・米澤貴紀・山岸吉弘、大野老松天満社旧本殿と『木碎之注文』の木割、日本建築学会学術講演会、平成23年8月25日(予定)、早稲田大学11号館908室(予定)
- ⑧ 山岸吉弘・永井規男・中川武・溝口明則・河津優司・坂本忠規・佐々木昌孝・小岩正樹・米澤貴紀・伏見唯、『木碎之注文』における柱-組物-垂木の関係について、日本建築学会学術講演会、平成23年8月25日(予定)、早稲田大学11号館908室(予定)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 昌孝 (SASAKI MASATAKA)
ものづくり大学・技能工芸学部建設技能工芸学科・講師
研究者番号：30367049

(2) 研究分担者

中川 武 (NAKAGAWA TAKESHI)
早稲田大学・理工学術院・教授
研究者番号：30063770

河津 優司 (KAWAZU YUJI)
武蔵野大学・環境学部・教授
研究者番号：50249041

小岩 正樹 (KOIWA MASAKI)
早稲田大学・高等研究所・助教
研究者番号：20434285

米澤 貴紀 (YONEZAWA TAKANORI)
早稲田大学・理工学術院・助手
研究者番号：40465464